

令和3年度 広島大学光り輝き入試
総合型選抜 (I型)
教育学部
第三類 (言語文化教育系) 英語文化系コース
小論文問題 解答例又は出題の意図等

[I]

課題1: 出題の意図:本文のこれまでの内容を踏まえた上で,“Tell me what you eat, I will tell you what you are.”という表現の内容が正確に理解できているかどうかを問うた。

課題2: 解答:(イ) Hence

出題の意図:前後の文脈から,文と文がどのような関係となっているかを把握する力をみるために作成した。

課題3: 解答: food, eating, foodways

出題の意図:文章の内容と展開を理解した上で読むことができているかどうかを問うた。原典では food が用いられているが, eating と foodways も正解とした。

課題4: 解答:(ア) Poverty has not been raised as an issue by the government.

出題の意図:前後の文脈から語の意味を推測する力をみるために作成した。「どれだけ単語を知っているか」「どれだけ珍しい意味を知っているか」といったことを問うための課題ではない。

課題5: 出題の意図:“The way we speak and what we eat”は何に基づいていると著者は考えているのかということ,“not~only, but…”という文構造を正しくとらえた上で理解できているかどうかを問うた。

令和3年度 広島大学光り輝き入試
総合型選抜 (I型)
教育学部
第三類 (言語文化教育系) 英語文化系コース
小論文問題 解答例又は出題の意図等

課題6: 出題の意図: “both” が指す内容と “bare necessities” という表現の意味を理解した上で, “both do more than consider bare necessities” という表現全体の意味を, 文脈に基いて理解できているかどうかを問うた。 “both” の指す内容としては, “food” と “language” あるいは “national foods and national languages” の両方を正解とした。

課題7: 出題の意図: “Words can have the same magic.” という表現が指す内容を, 文脈と本文中の例を踏まえた上で正しく理解できているかどうかを問うた。

課題8: 出題の意図: “Both food and language are made by building larger units out of smaller items” という著者の主張を, その根拠として示されている例をもとに正しく理解できているかどうかを問うた。

課題9: 出題の意図: 著者が “The 1st person pronoun *I* is unclear unless used by a specific speaker in a social context *I care*.” という表現で述べようとしている事柄を本文の文脈に沿って正しく理解できているかどうかを問うた。

課題10: 出題の意図: “*Kaffeeklatsch*” というドイツ語の表現の意味として著者が英語で説明している内容を正しく読み取れているかどうかを問うた。

令和3年度 広島大学光り輝き入試
総合型選抜（I型）
教育学部
第三類（言語文化教育系） 英語文化系コース
小論文問題 解答例又は出題の意図等

[II]

課題 11： 出題意図：実際の英語教育の状況をイメージしながら、具体的な授業や活動について日本語で書き表すことができるかを問うた。受験生が示すものがどのようなものであっても、論理性をもって示されていれば得点を与えた。

課題 12： 出題意図：日本語の主意を適切に英語で表現できるか、とにかく直訳しただけの不自然な英語ではないわかりやすい英語が書けるかを問うた。受験生には、おぎなりの定型表現・常套句を覚えるだけでなく、自らの実感を伴った意見を正確に翻訳できる創造的な翻訳能力も英語学習においては大切であることを自覚してほしい。